

## 吹田市商工業振興対策協議会 議事録

- 1 開催日 平成30年2月5日(月)
- 2 開催場所 吹田商工会議所 3階 大会議室
- 3 開催時間 午後1時30分から午後3時00分
- 4 出席委員 佐竹委員、宮田委員、井川委員、好見委員、田中委員、浦部委員、  
金谷委員、森田委員、竹原委員、藤原委員、井上委員
- 5 欠席委員 生駒委員、石川委員、原委員
- 6 出席職員 熱田次長、中川室長、奥山総括参事、大音主幹、宮崎主査、村田主任
- 7 傍聴者 1名
- 8 配付資料(事前送付)
  - (1) 次第
  - (2) 資料集
    - 資料番号1 . . . . . 平成30年度(2018年度)吹田市商工関係事業別予算(案)
    - 資料番号2 . . . . . 訪問企業情報のデータベース化について
    - 資料番号3 . . . . . 地域未来投資促進法に基づく基本計画の策定について
    - 資料番号4 . . . . . 企業立地促進条例等の改正案について
    - 報告資料1 . . . . . 吹田市商工業振興対策協議会(2017.10.26)への意見への回答

### 9 会議内容(発言要旨)

- (1) 平成30年度(2018年度)吹田市商工関係事業別予算案について  
事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) 予算額について昨年の資料と比較すると減っており、昨年の資料ではその前年と比較して増えていた。年によって増えたり減ったりする理由は。

(事務局) 平成29年度には地元企業発注促進補助金350万円が計上されているが、平成28年度、平成30年度には計上されていないこと、また融資関係の利子補給金等は交付件数に見合った金額を計上していることが主な要因。

(会長) 予算を切り詰める必要はあると思うが、全体として増やす、減らすということではなく、個別

の内容について検討した結果として増額・減額が起こると思う。

(委員) 融資事業について、開業支援について増えているが、信用保証料が大幅に減額されているが、それほど利用される見込みがないということか。

(会長) 一般的に言うと、利子よりも信用保証料の方が高額だと思う。

(事務局) 信用保証料については、市のあっせん融資を受けた方に対する補助制度であり、あっせん融資を受ける方が減ってきているためである。

(委員) 平成30年度と平成29年度の予算額が分かる表であるが、3年程度の実績額が分かるほうが対比できていいと思う。

(委員) 預託金が3億円計上されているが、現在の融資件数と残高は。残高に対して3億円は適正なのか。

(事務局) 取扱金融機関に対し、毎年1月末時点での貸付残高に応じた金額と最低金額の1,000万円の合計額を預託している。

(委員) 貸付残高が1,000万円に満たないところもあるのでは。各金融機関の貸付残高の合計額は3億円もあるのか。

(事務局) 正確な数字は把握できていないが、1億円程度であり、3億円には満たない。

(委員) それでは3億円も必要ないのでは。

(事務局) 預託金の4倍の貸付けを目標としている。次回の本協議会において、配分方法や貸付残高の報告をさせていただく。

(委員) 他の委員が指摘しているが、3億7千万円の予算となっているが、3億円の預託金を除くと実質的には7千万円の予算ではないか。

(会長) 次回の協議会にて融資についての指摘事項に対する報告と、予算資料については実績との対比の報告をお願いします。

## (2) 訪問企業情報のデータベース化について

事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) 企業訪問は吹田市内まんべんなく行っているのか。

(事務局) 特に地域を指定した訪問は行っていない。吹田市内では、例えば江坂駅周辺に事業所が集積していること等により、訪問先企業も多少エリアごとに濃淡がある。昨年度からは特に新規事業所の訪問に注力している。

(会長) 非常に大変だとは思いますが、データを増やしていくという意味でも意義のある仕事である。

(委員) 企業の課題や要望についてもまとめる必要があるのでは。あわせてエリアごとの分析もほしい。

(事務局) 今後の課題として認識している。今後、検討していく。

(委員) 業種は「その他」では分かりにくいので、より詳しく表記した方が分かりやすい。また、資本金規模はもう少し細かいレンジに区分できないのか。

(事務局) 業種については、更に詳細な表記をしていきたい。資本金規模については中小企業の判定等に使えるよう、分類を行っている。詳細な数値があるので、レンジを変えることは可能。

(3) 地域未来投資促進法に基づく基本計画の策定について  
事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) P18の資料「大阪府吹田市における基本計画の概要」に労働生産性という言葉が出てくるがどういう意味か。

(事務局) 労働生産性とは、一人ひとりの従業者によって新たに生み出された価値のことであり、付加価値額を従業者数で割った数値を用いている。

(会長) 昨今話題になっている指標。会計上の細かい話は除くが、経済学的には付加価値を労働で割ったもの。付加価値とは賃金と利益に置き換えることができる。生産性を上げるためには、人を減らすという方法、高くても売れるモノを作るという方法がある。最近では企業の利益が上がっているものの、賃金や設備投資に向かず、内部留保や配当の方向へ行ってしまう。

(事務局) 数値は経済産業省の統計を基にして出しており、本市においては「運輸業、郵便業」の763万円がトップとなっている。委員に配付している「吹田市商工振興ビジョン2025」に掲載している。

(委員) P18の資料「大阪府吹田市における基本計画の概要」とP30の資料「大阪府吹田市・摂津市における基本計画の概要」では、要件の中で売上げ増加の数値がそれぞれ4%、7%となって

いる。どうして両者に相違があるのか。

(事務局) 目標算定のターゲットとなる業種がそれぞれで異なっているため、目標数値にも相違がある。

(会長) 国は先端4分野、すなわちライフサイエンス、高度組立産業、エネルギー産業、AI・IoTに力を入れている。吹田市の場合はライフサイエンスが重要となってくるが、市内の既存産業との関わりは未知数であるが、他産業での余剰人員をこの産業に持ってこようとしている。

(委員) P2(2) 基本計画の概要にある目標値の根拠は。

(事務局) その業種の付加価値額の平均値から算出している。合計額については一件あたりの金額に件数と波及係数を乗じたものである。平均付加価値額については、一事業所あたりの平均値を用いている。

(委員) 目標も必要だが、達成することも大事。

(会長) 達成できるかは分からない。

(委員) 目標値として業種の平均値を用いることはあまりしないと思う。

(事務局) 国の基準に従っている。必須項目というわけではないが、市として4つの目標を掲げている。どの指標を選ぶかは地方自治体の任意となっている。

(委員) 摂津市との共同の計画があるが、達成したもののうちの何割が吹田市のものとなるのか。

(事務局) 分けにくいですが、摂津市のほうは製造業が集積している。あくまで両市にまたがった目標である。

(会長) 川上から川下までの一連の流れを産業連関というが、こういったつながった話では、連携することに意味があり、どの地域で何割、といった議論にはあまり意味がない。もちろんお互いにメリットはある。波及効果というのは過去からの産業連関の実績から算出されている。

(委員) 「運輸業、郵便業」の労働生産性が763万円でトップとのことだが、逆に言うと一人あたりの賃金が763万円を超えることがないということで、これが高いのか疑問を感じる。

(会長) データは持ち合わせていないが、周辺地域と比べると高いと思う。

(4) 企業立地促進条例等の改正案について

事務局側から資料説明の後、次の意見、質疑があった。

(委員) P 5 の資料「対象地域図」では制度の対象地域の地図が示されているが、吹田西部・南部地域には健都が入っているのでは。

(事務局) 健都を強調する意味で、敢えて重ねて表記している。

(委員) 健都には対象となる業種の企業立地の余地はあるのか。

(事務局) 可能性としては低いですが、国立循環器病研究センターの敷地内では可能性がある。

(委員) あとは民間の商業ビルくらいか。

(事務局) J R 貨物のエリアについては対象から外れている。

(委員) 国立健康・栄養研究所が移転することだが、どのエリアに来るのか。

(事務局) 健都イノベーションパークに立地する。摂津市の市域となる。

(5) 吹田市商工業振興対策協議会 (2017. 10. 26) への意見への回答について

事務局側から資料説明があった。

会長から、今回の協議会においても委員から書面で提出された意見につき、回答を作っておくように事務局に対し依頼があった。

(6) その他

事務局側から次回の本協議会は、平成 30 年 4 月 25 日 (水) の午後 2 時から午後 4 時に、吹田市役所中層棟 4 階の第 4 委員会室にて行う旨の連絡があった。